

第25回長岡しんきん 業種別景気動向調査レポート

平成 20 年 4 月 ~ 平成 20 年 9 月 : 実績
平成 20 年 10 月 ~ 平成 21 年 3 月 : 見通し

平成 20 年 10 月発行
< 編集 > 長岡信用金庫 総合企画部
電話 0258 - 36 - 4344
< H P > <http://www.nagaoka-shinkin.com/>
< メール > shinkin@nagaoka-shinkin.com

本レポートは、当金庫お取引先のご協力を得て調査したものです。(有効回答数 222 先、回収率 100%)
各設問事項で「増加(上昇)」したとする事業所が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする事業所の構成比との差(判断DI)を中心にまとめております。

概況 業況判断DIは5期連続で悪化、来期も一層の悪化を予想

平成 20 年 4 月 ~ 平成 20 年 9 月期における全業種の業況判断DIは、前回調査より 4.8 ポイント悪化して 42.7 となった。今回調査では、前回大きく悪化した建設業が前回調査に比べ 14.5 ポイント改善したものの、その他の業種は軒並み悪化する結果となった。なお、前年同期と比べると製造業で 13.8 ポイント、建設業で 35.5 ポイント、卸売業で 7.1 ポイント、小売業で 18.3 ポイントいずれも悪化しており、地元中小企業の景況マインドは一段と冷え込んでいることがうかがわれる。

来期(平成 20 年 10 月 ~ 平成 21 年 3 月期)は、「悪化、やや悪化」と回答した企業が 60%を超え、業況判断DIは 53.0 と平成 8 年 9 月期の調査開始以来 2 番目の悪化水準を見込んでいる。

業種別では、材料価格の高止まりが続く製造業で 30.8 と 3 期連続で悪化となった。今後の見通しでは大きな好転材料も見当たらないことから 49.0 と一層の悪化を見込んでいる。

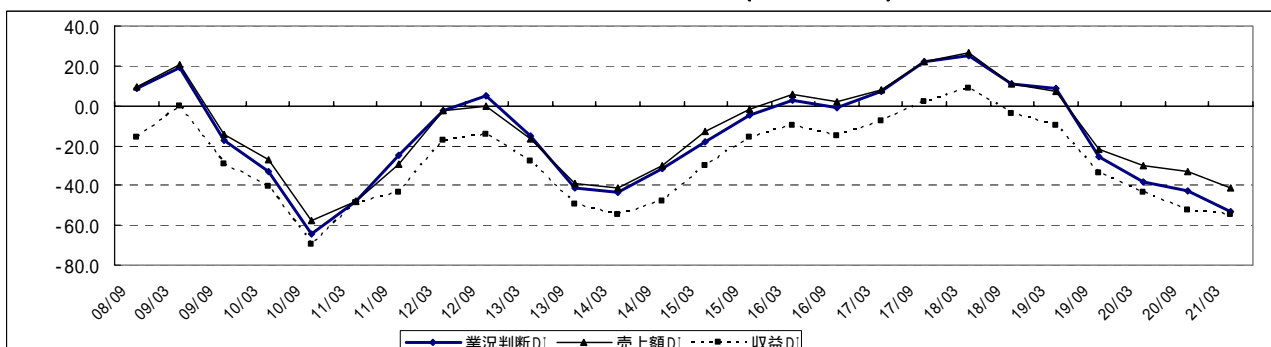
災害復旧工事が終了した建設業は公共事業の縮小のほか 4 月のいわゆるガソリン税問題の影響による稼働の遅れ等もあり、43.8 と前回調査に比べると 14.5 ポイント改善するものの依然低水準で推移している。今後の見通しでは、冬場に向かうという季節要因もあり 54.2 と再び悪化の傾向を見込んでいる。

卸売業、小売業については、景気の先行き後退を反映した消費の低迷や大手との競争激化からそれぞれ 57.1、74.9 とマイナス幅が拡大している。今後の見通しでは、卸売業が 47.7 と 9.4 ポイント改善を見込むものの、小売業は 75.0 と横ばいを見込んでいる。

今回から集計を開始した上記以外のその他の業種(サービス業、飲食業、不動産業)においては、44.4 といずれの業種と同様に低水準となっている。今後の見通しでも 52.7 と一層の悪化を見込んでいる。

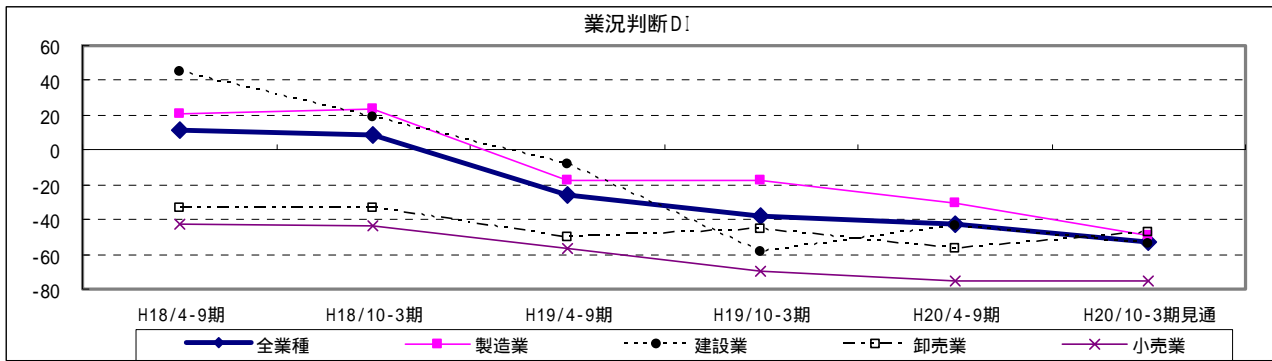
また、特別調査「中小企業の環境問題への取組みについて」では、「意識している」「やや意識している」を合わせると 75%以上となり最近の時勢を反映して関心の高さがうかがわれる。プラス面の効果としては、イメージアップやさまざまな経費削減効果が期待できると考えている企業が多かった。具体的な取組みでは、エネルギー等の節約や用紙利用の削減など身近なところからの着手が目立っている。しかし、それ以上の取組みとなると費用負担増やノウハウ・人材不足が障害となっているとの回答が多かった。

過去の業況判断DI、売上額DI、収益DIの推移(全業種計)(21年3月期は見込み)



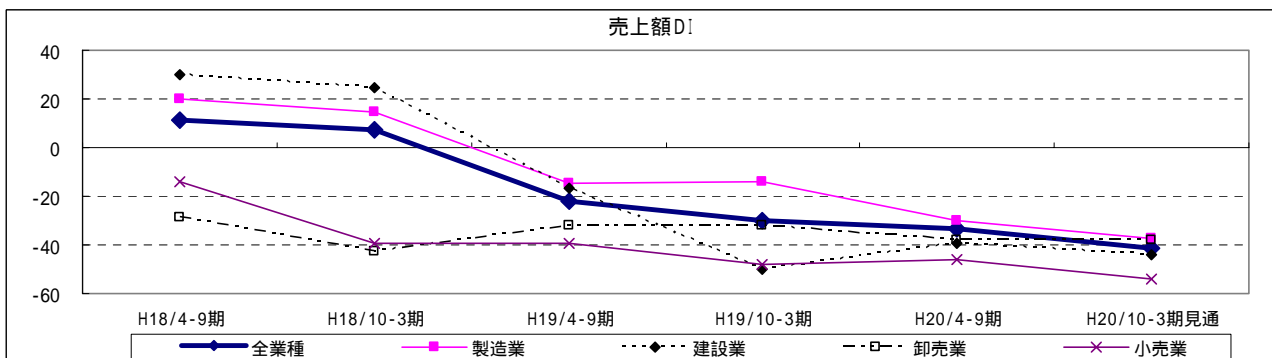
業況判断 D I

建設業だけが改善し他の業種は悪化幅が拡大した。3期連続で全業種マイナス推移となった。



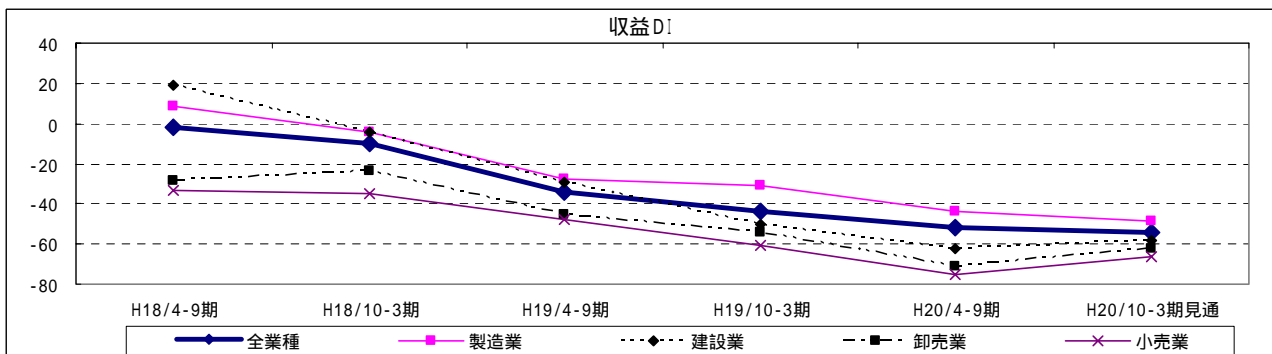
売上額 D I

建設業と小売業は改善したが製造業と卸売業は悪化した。卸売業以外は一層の悪化を見込む。



収益 D I

全業種で 10 ポイント以上マイナス幅が拡大した。ただ製造業以外は改善を見込む。



その他の調査項目の特徴点

仕入価格は、小売業を除き上昇幅が拡大、見通しでは全業種 10 ポイント以上改善を見込む。
 販売価格は、小売業を除き改善がみられるが、見通しでは建設業を除き再び悪化を見込む。
 商品在庫は、卸売業、小売業ともに引き続き「過剰」超だが、小売業はさらに過剰を見込む。
 受注残高は、製造業で 20 ポイント以上の落ち込みその後は横ばいを見込み、建設業は実績、見通しともに改善を見込む。
 資金繰りは、製造業と小売業で悪化、見通しでは小売業が横ばいのほかは悪化を見込む。
 人手は、製造業が「過剰」超に転じるが、建設業と卸売業は「不足」超が続く。

借入金の動向

(借入金の実施：平成20年4月～平成20年9月)

借入の実施	構成比	資金使途(「借入した」と回答した事業所のうち)					
借入した	47.7%	運転資金	78.3%	設備資金	17.9%	その他	3.8%
借入しない	52.3%						

(借入金の予定：平成20年10月～平成21年3月)

借入の予定	構成比	資金使途(「借入の予定あり」と回答した事業所のうち)					
借入の予定あり	36.0%	運転資金	77.5%	設備資金	17.5%	その他	5.0%
借入の予定なし	64.0%						

設備投資状況

(単位：%)

区分	前回調査 (実績)	20/4～20/9期 設備投資(実績)					20/10～21/3期 設備投資(予定)				
		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業
合計	27.8	29.0	29.9	31.4	19.1	20.9	21.7	16.0	27.2	9.6	25.1
土地建物	8.2	6.3	9.6	0.0	9.5	8.3	5.4	7.4	2.1	0.0	12.5
機械新增設	5.5	7.2	10.6	6.3	4.8	0.0	4.1	4.3	6.3	4.8	0.0
機械更新	4.6	5.0	4.3	6.3	0.0	4.2	4.5	4.3	0.0	0.0	4.2
事務機器	2.7	2.3	1.1	4.2	0.0	4.2	0.9	0.0	0.0	0.0	4.2
車輛その他	5.9	8.2	4.3	14.6	4.8	4.2	6.8	0.0	18.8	4.8	4.2

経営上の問題点(深刻度の高い順に3つ)

(単位：%)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業
売上の停滞減少	49.1	44.7	50.0	76.2	45.8
利幅の縮小	21.2		10.9	17.6	
原材料高	13.5	22.5	10.9	15.0	
人件費以外の経費増加		10.1			
同業者間の競争激化			25.0	15.0	20.0
販売先からの値下げ要請			10.9	15.0	
仕入先からの値上げ要請			10.9	17.6	
地場産業の衰退			10.9		
大手企業との競争激化					21.7

当面の重点経営施策(重要度の高い順に3つ)

(単位：%)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業
販路を広げる	49.5	51.1	41.7	81.0	29.2
経費を削減する	32.2	34.4	31.1	50.0	29.2
技術力を強化する	22.8	36.4	22.9		13.6
情報力を強化する				13.3	
新しい事業を始める				13.3	
人材を確保する					15.8

調査員のコメントから

前四半期は若干苦戦したが、IT産業向けの機械加工を主体に、海外向け製品の増加から受注量は回復傾向にある。(精密機械部品製造)

懸念された原材料価格も8月下旬より一服感、依然として高止まりであることは間違いないが青天井から脱した感がある。(建築金物製造)

木型部門を工場移転し、それに伴い中古機械を3台増設した。大型製品の受注が可能となり、安定した受注確保を図っている。(鑄造用木型製造)

原材料高騰について4~9月期は転嫁できたが、これからは厳しい状況が見込まれる。老朽化した設備を入替したいが先行き不透明感が強く思案中である。(鑄物製造)

新築・建替え物件は減少傾向であることからリフォーム部門の受注で売上維持を図っている。年未完工に向け、第3四半期は売上増加が見込まれるものの、以降のプラス材料は少ない。(住宅建設)

原材料の高騰による仕入価格の上昇に加え、最近の国内外の食品問題もあり業況は更に厳しさが予想される。(食品卸売業)

鉄工業界の業況悪化が鮮明になってきており、売上増加しているのは製品単価値上げによるものであり、「量」は減少している。(鋼材卸売業)

近隣競合店と同等の価格対応をタイムリーに実施しているが、価格の高止まり、消費マインドの低迷もあり、秋口以降は若干の売上減少が予想される。(石油製品小売業)

燃料費の高騰もあり収益面は下降傾向であるが、物流量の大幅な変動はなく、付加価値の高いサービス機能追加により同業他社との差別化を図っている。(貨物運輸業)

特別調査「中小企業の環境問題への取組みについて」

